

平成 30 年度高根沢町総合戦略推進会議記録

1. 開催日時 : 平成 30 年 8 月 1 日 (水) 13 時 30 分～15 時 24 分
2. 開催場所 : 第 3 庁舎 大会議室
3. 会議の趣旨: 平成 27 年度に策定した「高根沢町まち・ひと・しごと創生総合戦略(高根沢町総合戦略)」に掲げた基本目標の達成に向け、推進にあたっての意見や内容の達成度等の効果検証を行う。

4. 出席者

(構成委員)

部門	所 属	職 名	氏 名	備 考
産業	高根沢町農業士会	会 長	村 上 悦 郎	
産業	高根沢町経済懇話会	会 長	東 原 正 記	
官公庁	高根沢町議会	副議長	加 藤 章	
官公庁	高根沢町議会	建設産業常任 委員会委員長	梅 村 達 美	
官公庁	高根沢町教育委員会	委 員	齋 藤 君 世	欠席
学術	宇都宮大学地域デザイン科学部	准教授	佐 藤 栄 治	
金融	栃木銀行宝積寺支店	支店長	大 山 晃 一	
民間	高根沢町区長会	会 長	牧 恒 男	
民間	高根沢町人権擁護委員会	会 長	加 藤 淑 江	
民間	高根沢町志民活動サポートセンター たんたん Café	会 員	山 崎 周	
官公庁	高根沢町	町 長	加 藤 公 博	座 長
官公庁	高根沢町企画課	課 長	加 藤 敦 史	

(事務局)

高根沢町企画課	課長補佐	山 本 忠 男	
	係長	檜 山 史 進	司会 説明
	主任主事	棚 木 正 肅	

## 5. 議事内容及び委員からの主な意見

### (1) 地域再生計画、地方創生関連交付金等に係る事業の効果検証について

- ① ワンストップ!移住・定住・創業支援事業(地方創生推進交付金)
- ② 移住・定住・創業支援センター及びクリエイターズ・デパートメント整備事業(地方創生拠点整備交付金)
  - 「ほぼ毎月、駅前に行けば何かイベントをやっている。」というイメージを、対外的に刷り込みできつつあるように感じる。
  - 特に、町外・県外者からの評価が高い。
  - 今後はこの盛り上がり、駅前だけでなく、どう町全体に広がっていくかが課題。
  - ソフト事業だけでなく、駅までの歩道整備や案内看板等、ハード事業を織り交ぜればさらに今度は、駅周辺の回遊性も増すのではないかと。
  - クリエイターズ・デパートメントでお試し創業をしている5件を、町内創業へと誘導していくことが望まれる。そのためにも、空き家バンク制度について、相続の手続きに係る課題等、法的なハードルがあるにせよ、売り手(貸し手)が登録できるよう、行政としてできるサポート策を検討されたい。
- ③ J R 烏山線沿線まちづくり推進事業(地方創生推進交付金)
- ④ ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業(地方創生推進交付金)
  - 特にコメントなし

### (2) 総合戦略の進捗状況について

- ・施策No.3-4(企業誘致体制の強化)
  - ソフト面の優遇制度・支援制度の周知も大切だが、その他例えば、現在一箇所しかない情報の森の出入口を整備し渋滞緩和を行うなど、ハード面での、誘致に向けての環境整備も大切である。
  - 優遇制度・支援制度が現在利用されていないが、制度の使い勝手(利用しやすさ、しづらさ)を常に検証しながら、引き続き周知を図られたい。
- ・施策No.3-7(中心市街地の活性化)
  - 「ソラシタ夜市」等の駅前イベントについて、担当だけでなく、もっと多くの役場職員に参加してもらいたい。
  - 空き家バンク制度だけでなく、商店街の活性化、空き店舗対策についても、何らかの取り組みが望まれる。  
住居部分と店舗部分の電気や水回りを分離するためのリフォーム支援等を実施することで、空き店舗の活用が活性化されるのではないかと。
- ・施策No.4-7(特色ある教育支援の充実)
  - KPIである「全国学力・学習状況調査の平均正答率」については、単純に年度単位で比較するのではなく、子どもたち単位で経年の変化をみていく必要がある。